

卷頭言 人間と植物の関係を見つめ直す 中嶋康博…………… 1

序章 農の変遷と課題 江頭宏昌…………… 9

はじめに 植物の効用 今後の食料確保に向けた課題
フォーラムの議論の流れとこの本の構成

第I部 栽培化と品種改良

第1章 栽培化と文明 佐藤洋一郎…………… 18

人類の食を変えたエポック 栽培化の始まり
農耕はなぜ起こったか 穀類農耕の起こり
文明と穀類 穀類農業を拡大した戦争や宗教行為
穀類はどこで生まれたか 穀類がもつもう一つの特徴
穀類農耕の発展 三大穀類、米、小麦、トウモロコシ
まとめ

第2章 野生種と栽培種 山口裕文…………… 37

はじめに 栽培種とは——栽培化症候と生物学的分類学的認識
東アジア起源の栽培種 東アジアの種子作物アズキとヒエの栽培化
栽培化と管理インテリジェンス 地域複合と文化複合そして崩壊

第3章 近代育種から遺伝子組換えまで 大澤良…………… 63

はじめに 育種小史
育種がもたらしたもの——アジアでの「緑の革命」を事例に
近代育種と生物多様性——遺伝資源多様性について おわりに

第II部 採集と栽培

第1章 採集根茎——トコロの民俗 野本寛…………… 90

採集活動とトコロ 冬籠りとトコロ トコロと年中行事
気象環境とトコロの力

第2章 採集と栽培の共存

——ラオスの「在来農法」をめぐる 落合雪野……………110

はじめに 分散型社会と自給農業 水田稲作を行う人びと

焼畑耕作を行う人びと 「在来農法」のなかでの栽培と採集

「在来農法」のこれから

第Ⅲ部 農のあり方をめぐって

第1章 近代農法を支えた思想と社会 秋津元輝……………132

近代農法への接近法 近代農学の誕生 近代農法の担い手

技術としての近代農法 産業的農業思想と農本的農業思想

疎遠化する農と食

第2章 有機・自然農法の思想と実践 榎瀉俊子……………154

有機・自然農法の提唱と運動の組織化

有機農業運動は何をめざしてきたのか

ハウードの農業理論と堆肥施用有機農業技術

自然農法の思想と実践 自然農法、無肥料・自然栽培の原理・技術論

有機農業はどこに向かうのか——持続可能な自然共生型農業と消費を求めて

第3章 グローバル技術と今後の農業・食文化 古在豊樹……………174

はじめに 「食と文化」に関する基本的視点

次世代農業の視点——近代農業をどう超えるか 情報利用の限界費用

エネルギーの限界費用の低下 情報技術と製造技術の融合

食料生産システムの多様性と持続性 都市住民の農業体験と食の文化

人工光型植物工場の特徴と今後の食の文化

農耕文化都市の構築をめざして 今後に向けて——植物工場と田畑の役割

総括 農のジレンマをどう乗り越えるか 江頭宏昌……………199

はじめに 人間と植物との関係 近代農法と在来農法

植物資源の保存と継承 農の未来像へのヒントを求めて おわりに

総合討論

231

苦み、毒抜きと栽培化 採集と栽培——野生植物をめぐって
なぜこの栽培種を選んだのか 作物と人間とのかかわり
栽培化と家畜化の理解 ラオスで食べる在来種と野生種
食物選択における経済的作用 品種改良を理解する
在来作物の多様性を守る 在来と近代のはざま 近代農法とは何か
自然農法と有機農法 植物工場の可能性
九〇億人を養う——これからの農を考える

「人間と作物」を考える文献…………… 285

あとがき 江頭宏昌…………… 291

執筆者紹介…………… 301

装幀 市川美野里